



現地説明会のご案内

平成25年12月9日
松江市教育委員会
(公財)松江市スポーツ振興財団

平素より本市の文化財行政につきまして、ご理解ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

城山北公園線（通称大手前通り）の拡幅工事に伴い城下町遺跡の発掘調査を行なっておりますが、江戸時代の屋敷跡が良好な状態で発見されましたので、ご紹介させていただくことになりました。

開催日：平成25年12月14日（土） 午前10時00分から

場所：南田町の発掘調査現場

今回の調査地は、松江藩主松平氏の治世に、当時の筆頭家老であった大橋茂右衛門の屋敷地にあたり、古絵図からは大橋氏の直属の家臣（与力）の屋敷があったことがわかっており、発見された屋敷跡に、この家臣が住んでいたものと考えられます。

この屋敷跡は、火災にあっており、建物があつた場所が真っ黒に焼けた状態で見つかりました。火災にあった後に屋敷を建て替えたようで、真っ黒に焼けた土を取り除いた下からは、建て替え以前に置かれた礎石も並んで見つかりました。

さらに、屋敷の床下からは、桶が二つ並べて埋められているのが発見されました。調査の中で、納められた時期は異なるものの、地鎮に使用された鉄の球が見つかり、これらの桶も地鎮具として床下に納められた可能性も考えられます。

当日は、発掘現場で屋敷跡を見学していただいた後、こうした鉄の球や発見された生活用具もご覧いただきたいと思います。

主な出土品



床下に埋められた二つの桶



地鎮に使用された鉄の球



口紅の残った皿



火災にあつた礎石建物跡（黒くなっている所が火災跡）

地鎮具として、鉄の球が使用される例は全国的にみても、出雲地方が最も多く、松江城下町遺跡で発見されるのは、これで4例目となります。